

# 平成28年度 横浜市民意識調査 結果速報

横浜市では、市民の日常生活を意識と行動の両面からとらえ、市民の生活意識や生活構造を明らかにし、市政運営や政策立案の基礎資料として活用することを目的に、昭和 47 年度から毎年、市民意識調査を実施しています。

平成 28 年度は、市政満足度、市政への要望、心配ごとのほか、特集として、生活価値観、自由に過ごせる時間等について、外国人を含む 20 歳以上の市内居住者 3,000 人を対象に調査しました。今回、単純集計の結果がまとまりましたので、速報としてお知らせします。

今後詳細な集計や分析を行い、平成 29 年 3 月頃に報告書を公表する予定です。

## 結果のポイント

- ① 心配ごとや困っていることで「自分の病気や健康、老後のこと」が 5 割を超える。5 割を超える回答項目が出たのは初めて。
- ② 市政について、満足度が最も高いのは 9 年連続で「バス・地下鉄などの便」で、2 人に 1 人が選択。要望は 6 年連続で「地震などの災害対策」が最も多い。
- ③ 今の住まいに住み続ける意向のある人は 66.0% で昨年調査より 5.0 ポイント増加。移転意向は 15.7% で 4.2 ポイント減少。
- ④ 自分の生活に満足している人はおよそ 7 割。「家族との関係」や「住まい」には 7 割以上の人満足している一方で、「収入」に満足している人は 3 割強。 **特集**
- ⑤ 自由に過ごせる時間を共に過ごすのは「家族や親類」が約 4 割。「あまり外出せず、自宅で過ごす」ことが多い人が約 5 割。 **特集**
- ⑥ 生活価値観では、「夫も家事や育児を分担すべきだ」と思う人は約 7 割で、同様の質問をした平成 12 年度調査の結果と較べて 0.8 ポイント減少。住むところに関する価値観では「多少生活が不便でも、静かな郊外に住む方がよい」と思う人は約 2 割で平成 12 年度調査と較べて 20.6 ポイント減少。「同じ場所にずっと住むよりも、生活の変化に応じて住み替える方がよい」と思う人は約 2 割で、同じく平成 12 年度調査と較べて 14 ポイント減少。 **特集**

※ **特集** がついている項目は今年度の特集で、毎年尋ねている経年調査項目ではない質問項目です。

### ■ 調査の概要 ■

調査地域： 横浜市全域  
調査対象： 市内に居住する 20 歳以上の方 3,000 人（外国人含む）  
抽出方法： 住民基本台帳から日本人は層化二段無作為抽出\*1、外国人は無作為抽出  
調査方法： 郵送留置・訪問回収法（調査票を郵送、後日調査員による個別訪問回収）  
調査時期： 平成 28 年 5 月 20 日～6 月 6 日  
回収結果： 2,194 票（回収率 73.1%） ※ 平成 27 年度回収率：71.5%

\* 1 層化二段無作為抽出…母集団をいくつかの層に分け（層化）、それぞれの層から二段階に分けて標本を抽出する方法

\* 過去の意識調査の報告書は下記ホームページからご覧いただけます。また、今回公表の単純集計データは、オープンデータとしてご利用いただけます。詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/seisaku/seisaku/chousa/ishiki/ishiki-index.html>

お問合せ先

政策局 政策課担当課長

宮嶋 真理子

Tel 045-671-4202